



- 入園料…大人(15歳以上) 100円  
子供(6歳以上)・60歳以上・障がい者とその付添人 50円
- 開園時間…午前9時～午後5時(入園は午後4時半まで)
- 休園日…毎週火曜日及び年末年始(12/28～1/4)  
(火曜日が祝日に当たる場合は、翌日。また火曜日を含め祝日が連続する場合は祝日終了の翌日(平日))
- 無料公開日…10/1
- 所在地…小金井市真井南町三丁目2番28号
- 交通…中央線武蔵小金井駅南口下車、徒歩15分  
又は、京王バス東府中駅行き「小金井警察署前」下車、徒歩1分
- 敷地面積…12,479.99平方メートル
- 問合せ…澗浪泉園管理事務所：電話(042)385-2644  
小金井市環境部環境政策課緑と公園係：電話(042)387-9860

## 深山の趣 そのままの庭園

滄浪泉園は、明治・大正期に三井銀行などの役員、外交官、衆議院議員などを歴任活躍した波多野承五郎により、武蔵野の特徴的な地形である「はげ」とその湧水を巧みに取り入れて整備された庭園を持つ別荘として利用されてきました。

その名の由来は、大正八年、この庭で遊んだ天童殿元首相によって、友人波多野承五郎のために名付けられたもので、「手や足を洗い、口をそそぎ、俗塵に汚れた心を洗い清める、清々と豊かな水の湧き出る泉のある庭」との深い意味を帯びています。

入口付近の石の門標は、天童殿自らの筆によるもので、波多野氏の雅道の友であった篆刻家足立晴嶺によって刻まれた、萬成と呼ばれる大きな赤御影石が使われています。

昭和に入って、三井鉱山の役員であった川嶋氏の手に移り、手賀の大きな家や長屋門などが風情なたたずまいを見せていましたが、昭和32年に買収される直前、残念ながら取り壊されてしまいました。



水面に映る新緑



当初、三万三千平方メートル余りあったといわれる泉園も、次々に宅地化の波にのまれ今では三分の一程になってしまいました。約一万二千平方メートルの園内は今でも武蔵野の面影を十分とどめ、うっそうと茂る樹林内では、コケラ、アオゲラ、メジロ、キジバト、ウグイス等、野鳥の鳴声が一年中絶えることなく、また今なおこんこんと湧く湧水をたたえた池にはカモやカワセミも飛来し、ゴジュウケイの親子連れが笹をかき分け過ぎるなどはほえましい光景も見られます。



水琴窟



「東京の名湧水57選」に選定されました。

## 滄浪泉園の自然

滄浪泉園は、古代多摩川が、次第に南西に移っていく途中でできた、最も古い丘陵の一つに位置しており、この斜面は地形学上、園分寺崖線と呼ばれ、立川市の北東から世田谷区の野毛まで続いています。崖下の砂礫層からは豊かな地下水が湧き出て、それを一般に「はげ」と呼んでおり、長い間人手が加えられていなかったため、今では崖上、斜面、低地、水辺とそれぞれに植物がすみわけて安定した生態系を構成しています。これらの植物は、「はげ」の崩壊を防ぐとともに多くの生物の棲息を可能にしています。そして水の実や虫を求め、四季を通してたくさん野鳥も集まっています。

また滄浪泉園内には、煙や大気汚染を嫌う杉、赤松（推定樹齢90〜120年）等が数多く残り、一部には関東ローム層（所謂赤土）の地、独特の風情である二級林の特徴も見られ、今ではこの近辺では見られなくなった、ニリンソウなどの野草も残っていることは貴重な自然といえます。

## 滄浪泉園の保全にあたって

滄浪泉園は、小金井の歴史と共に多々できた「はげと湧水」を巧みに生かした由緒ある緑地として知られており、この名園も、一時期マンション建設計画が起り、存在が危ぶまれたこともありましたが、多くの市民のみなさんの要望が実現し、昭和32年、東京都の御理解・御協力のもとに緑地保全地区の指定・買収を受け、素いあらたに自然緑地として木長く都民の財産として残していくことが出来ました。現在は、約1.3ヘクタールが特別緑地保全地区に指定、拡大され、貴重な自然環境を守ることが出来ました。

小金井市を訪れたみなさんの印象は、緑のまち、静かなまちなど武蔵野の面影を心の中に描く方が多いのではないかと思います。滄浪泉園は、このような緑濃い小金井のまちを象徴する緑として、あとに続く世代に自然の尊さを語り継ぐいしぶみになることを期待し保全、開園されたものです。

滄浪泉園を訪れましたみなさんには、この自然が生み出した貴重な森を大切にされ、緑豊かな潤いのあるまちづくりのためご協力くださるようお願いいたします。